

私立 文京学院短期大学

取組名称 **就業力向上支援の強化と既卒者を含むキャリア支援体制の確立**

取組担当者 **英語科 学科長・教授 林 寛美**

1. 本学の概要

文京学院短期大学は、1964(昭和39)年4月に女子の高等教育機関として、現在の文京区に設立された。2002(平成14)年文京学院短期大学に改称。そして2006(平成18)年、共生社会の実現を目指し男女共学化した。建学の精神は、「自立と共生」である。

英語科のみの単科大学であり、収容定員は1・2年合わせ240名である。併設する文京学院大学は、4学部9学科、大学院3研究科の総合大学であるが、本短期大学は併設大学と積極的に連携しながらも短期大学の独自性を失わず、密度の濃い教育を推進しており、社会的需要と各方面からの高い期待に応えるため、高等教育機関としてその使命を果たしている。

文京学院短期大学の教育理念は、「誠実」「勤勉」「仁愛」である。これらの理念は、建学の精神である「自立と共生」の具体的な考え方であり、創立者・島田依史子が、自らの行動規範として心がけていた言葉でもある。本学は、「短期大学士にふさわしい人間教育と職業教育」を行い、21世紀の社会に貢献できる人材の育成を教育目標に掲げている。英語を修得し、教養と国際感覚が身についた豊かな人間性を備えた有為な、ビジネスの舞台で活躍できる人材を輩出している。一方、短期大学を第一ステージとして更に勉学を続ける学生には、留学や編入学を可能とする学力の身に付きカリキュラムを提供している。

2. 本取組の概要

本学は、英語ビジネスコース（エアライン、トラベル、ホテル、ビジネス）と英語コミュニケーションコース（留学、編入学）の2コース制により、短期大学士力育成の取組（人間教育、職業教育、教養教育、実務教育、実践的な英語教育）を行っている。そして、全専任教職員が、初年次の早い段階から、個別に学生と関わり、学生自身による主体的キャリア活動を支援してきた。今回、雇用環境の悪化に対応するため、産

業界や地域と連携しながら、就業力のうち、主に「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」「自己管理能力」「チームワーク力」の向上をはかる取組を実施する。学士課程教育の一部として位置づけられるのにふさわしい内容・水準を維持する。この取組は、2008(平成20)年12月24日付け中央教育審議会が答申した「学士課程教育の構築に向けて」及び2008(平成20)年10月16日付け日本私立短期大学協会の中間報告「新時代の短期大学の役割と教育機能」を前提としている。近年、企業は即戦力を望んでいるという考えから、学生の資格取得などの就職対策に力を入れている短期大学が目立っているが、実際に企業の多くが望んでいることは、むしろ汎用性のある基礎的な能力である。

また、未内定者や内定取消学生が安心して学業を続けることができるように、既卒者用就職情報システム、キャリアカウンセラーによる心のケアや情報交換の場としてのSNSコミュニティを創設し、休業期間中や、卒業後も継続してキャリア支援を行う体制を確立する。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

未曾有の不況が学生の雇用環境を不安定にしているため、これまで培ってきたインターンシップをはじめとする多様なキャリア教育の取組に加えて、今回、地域連携、産学連携による就業力向上に効果のある取組を実施するとともに、未内定学生や内定取消学生も、安心して学業を続けることができるように、既卒者を含めた学生本位のフォローアップ体制を整備強化することを目的とする。

(2) 達成目標

職業観や自己達成感を高めるのみならず、持続的な就業力として、「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」「自己管理能力」「チームワーク力」の向上を目指すこと、及び未内定や内定取消学生の増加懸念から、就職希望者への就職支援や心のケア支援を、休業期間中や卒業後も継続して行うことができるシステム

全般を構築し、運用することを達成目標とする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

人生経験豊かな人材を活用した地域連携ジョブサポーター制度、専任教員と職業カウンセラーとの連携による学生のキャリア相談・面接体制の構築、キャリアポートフォリオノートの活用、企業施設を利用したヒューマンスキル訓練（2年目）の創設により、就業力向上と学生本位のサポートを行う。休業中利用可能な既卒者用就職情報システムの構築と、必要情報の提供や、キャリアカウンセラーと学生・卒業生によるキャリア支援SNSコミュニティの構築により、心のケアや就職支援の他、情報交換の場も提供する。

(i) 教員向け研修会の実施

本短期大学の教育課程は、実践的なカリキュラムであり、志望コース毎に実践的な英語教育やホスピタリティ科目等の職業教育を充実させ、国内外の多彩なインターンシップ先が用意され、学生は、1年次から自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を得られるよう、インターンシップ授業科目を重点的に配置してい

る。特に海外におけるインターンシップは、実際の場面で英語運用能力と自主性・柔軟性のある人材を育成することができ、社会で即戦力となる人材育成に効果を上げている。具体的には、共通基礎科目（多数の英語関係科目の他、初年次セミナー、情報処理、日本語表現、e-ラーニング）、コース毎に専門選択科目（航空概論、エアラインホスピタリティー、プレゼンテーション論、旅行業概論、観光地理、トラベルホスピタリティ、ホテル概論、ホテル業界研究、ホテルホスピタリティ、国際ビジネス概論、貿易実務、ビジネス検定、インターンシップ、ビジネスマナー、その他）が配置されており、希望進路にあったカリキュラム体系となっている。

キャリア教育は、持続的な就業力の育成を目指すものとして、教育課程の中に適切に位置づけるもので、豊かな人間形成と人生設計に資するものであり、単に卒業時点の就職を目指すものではない。アウトソーシングに偏ることなく、全専任教員が参画して、学生のキャリア形成支援に当たる必要がある。そのため全専任教員に対して、専門の職業カウンセラーによる研修をFDの一環として行い、全専任教員が、キャリア教育分野の職能開発を受け、その後、学生にキャリア教育を行う取組となっている。

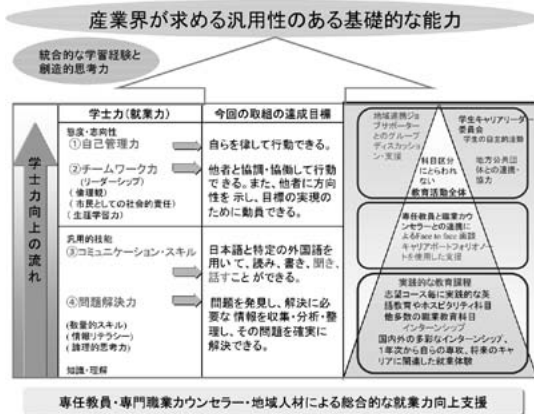


図1 総合的な就業力向上支援

表1 今回の取組のうち「文京学院SNSコミュニティ」及び「既卒者用就職情報システム」の構築によって強化される内容

就業力向上支援及び既卒者を含むキャリア支援体制	実施済	今回の取組で強化
休講期間中の対応	○	○
心のケアなど専門的な対応等	○	○
就職相談体制の強化	○	○
ビジネスマナー講座	○	○
プレゼンテーション能力養成講座	○	○
種々の資格取得講座の開設	○	○
卒業生や保護者を含めた就職相談会の実施	○	○
企業との交流促進による求人確保	○	○
ホームページや大学独自の就職情報誌等の作成による情報提供	○	○
在学生、卒業生の情報のデータベース化	○	○
平日や休業期間中でも学生に直接、迅速に求人情報を提供するため、在学生・卒業生情報のデータベース化、メールシステムでの導入	○	○
就職が決まらなかった卒業生に対する求人情報の提供	○	○
卒業生を雇用して行う体験発表会や就職相談会の実施	○	○
就職担当窓口職員と各学部の教員との連携	○	○
教職員による企業訪問や企業との情報交換機会の実施などによる求人確保	○	○
パンフレットの配布や学内説明会の実施による学生への情報提供	○	○
土日や長期休業中（年末年始を含む）など休講期間中の相談体制の確保（電話やメールによる相談への対応など）	○	○
内定が取り消された場合の対応について、掲示板や文書による学生・教職員への周知	○	○
内定を取り消された学生個人に対して、本人の希望を踏まえた相談に加えて、内定を取り消した企業との交渉のフォローアップや学生の心の痛みへの対応なども含め細かく対応	○	○



写真1 全専任教員対象の職業カウンセラーによるFD

(ii) 専任教員とカウンセラーとの連携による学生のキャリア相談・面談体制の構築

本学では、専任教員によるアドバイザー制は入学時のフレッシュマンキャンプから始まり、1年次からグループアドバイザー担当教員による個別指導を行っているが、今回の取組は、アウトソーシングに偏ることなく、全専任教員が、専門職業カウンセラーとペアで、キャリア相談・面談を行う。学生力の上には、専任教員による教育現場での取組が基本となる。社会が求めている就業力は、即戦力のみならず、本来は学生力である。そのため、専任教員は、専門職業カウンセラーやキャリアコンサルタントと協力して、一人の学生とFace to Faceで向き合う取組が必要となる。



写真2 職業カウンセラーによる就業力向上セミナー

専任教員が必ず参加し、教員自身のキャリア分野の職能開発を行う。個別面談だけでなく、専任教員と職業カウンセラー、キャリアセンター職員の連携が、一人の学生を支援していく。

(iii) 地域連携ジョブサポーター制度の創設とその活用

短期大学の課程は、ユニバーサル段階の身近な高等教育の一つとして、また、地域と連携協力して多様な学習機会を提供する、知識基盤社会での土台づくりの場という側面が期待されている。一方、短期大学からみると、地域の人材は、多くの社会経験や人生経験を持ち合わせているジョブサポーターとして、貴重な存在である。

本学では、以前から様々なアクティブラーニング手法を用いた学習スタイルを積極的に取り入れており、例えば、インターンシップは、全学生の約5割が参加し、成果を上げている。ボランティア活動も、様々な体験から多くのことを学ぶことができるが、本学ではキャリア教育の視点から、学生有志による学生キャリアリーダー委員会が組織されている。機関誌の発行、卒業生への取材活動、企業見学や取材、就職ガイダンスの運営、後輩指導、大学祭での活動報告展示等、他の学生のキャリア形成に関わる諸活動を行っている。

実践力を身につけるためには、学生一人ひとりが積極的に参加するアクティブラーニングが必要で、今回採択された取組の一つが、地域でボランティア活動を行っているNPO団体や、文京区とタイアップして実施している生涯学習司養成講座を卒業した地域住民の協力を得て、学生のキャリア活動を支援するジョブサポーター制度である。この取組は、一方的にサポーターから学生がアドバイスを受けるものではなく、学生と地域住民が一緒になって相互活動を行うことを通じて、職業観を涵養するとともに、就業力のうち、特に、コミュニケーション・スキル、問題解決力、自己管理能力、チームワーク力の向上を目指す。さらに、地域住民との関わりを通じて、倫理観や市民としての社会的責任、生涯学習力にも効果が期待できる。

(iv) 「文京学院SNSコミュニティ」の構築と実施

SNS (Social Networking Service) は、個人間のコミュニケーションを促進するためのインターネットを利用したサービスである。様々なSNSがあるが、文京学院SNSコミュニティは、本学独自のSNSとして構築するものであり、本学の学生、卒業生、教職員及び許可された関係者のみが閲覧できるシステムである。そのため、宣伝や広告、カルト宗教からの勧誘、キャッチセールス等の悪徳商法その他の危険を気にすることなく、安心して利用できる。未内定者や内定取消学生を在籍中並びに休業期間中や卒業後も継続して支援できる取組となる。その内容は、就職支援にかかる多様な情報提供、ガイダンス、職種別研究会やジョブクラブの案内、参加する相互間の情報交換、キャリアカウンセラーによる助言、卒業生からの情報提供、卒業生も加わった学生キャリアリーダー委員会による活動報告、その他様々な取組を行う。

(v) 既卒者用就職情報システムの構築と運用

「文京学院SNSコミュニティ」で、卒業生に対して、様々な就職支援情報を提供したり、就職指導の専門家やキャリアコンサルタントによる相談ができるようになるとともに、「既卒者用就職情報システム」で、本学にある求人情報やフォローアップ講座の情報などを、卒業後もいつでも自宅で閲覧できるようにしている。在学生のほか本学の卒業生だけが利用できるため、仮に未内定のまま卒業したとしても、短期大学とのつながりが継続されるので、孤独感や疎外感を感じることなく、就職活動を続けることができる。

(2) 取組の実施体制

(i) 学長、学科長を中心とした全学的な取組

学長、学科長を中心とした取組であり、全専任教員(グループアドバイザー/1年、クラスアドバイザー/2年)がキャリア指導の専門家や多数のキャリアコンサルタントを配置しているキャリアセンターと連携して、初年次の早い段階から、学生一人ひとりと関わり、学生個々の状況を把握していく。一部のキャリア教育担当教員やアウトソーシングへの偏った取組ではなく、全専任教員による取組である。学士力の向上に、専任教員の役割が最も重要である。全学をあげての総合的な取組を行うためには、学科長が中心となって行う必要がある。キャリア教育の体系化や再構築による活性化、行政機関との協力、産業界・地域との連携等の企画立案を行っている。

また、SNSコミュニティ等を活用し、心のケアも含めて、未内定者や内定取消学生を卒業後も支援する実

施体制を構築する。

(ii) 実施体制、教育方法等の創意工夫について

実践的課題解決型教育科目やアクティブラーニングであるインターンシップを中心にした本学の教育課程を前提に、学生に対するカウンセリングやグループワーク、ジョブクラブ、訓練セミナーを、学内教育資源だけでなく、広く産学交流、教育機関間交流を行い、地域の潜在力を活用して実施するものである。学生組織による学生へのキャリア教育活動も支援する。この教育改革により、学生は、さらに職業観や職業意識が醸成され、社会性の涵養、自立心の確立、課題探求解決能力が養われる。

(iii) 期待できる成果等の教育改革への有効性について

この取組は、全専任教員が、専門職業カウンセラーやキャリアセンターの協力を得て、多様な学生に対して、早い時期からきめ細かい対応を行い、全ての学生の職業意識や学士力の向上を目指すとともに、厳しい雇用環境の中で、学生を休業期間中や卒業後も支援する教育機関としての使命を果たす取組であり、有効性は高い。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

本取組に対しては、様々な視点からの多様な点検・評価を行う。本学が目指すキャリア教育を完成するため、学科長を中心にして、専任教員、専門職業カウンセラー、キャリアセンター内のキャリアコンサルタントが協力して全体の企画設計を行う。学内組織・機関が計画を実行し、評価体制で点検評価を受け、さらに全体計画を修正改善していくPDCAサイクルによる評価体制とする。1) 就業力の向上については、学生自身による一次評価、ジョブサポーター・キャリア委員会の専門教員による二次評価、外部評価委員会（産業界、他の教育機関、その他）による三次評価を行う。2) 休業中や卒業後も支援するフォローアップシステムの構築と運用



図2 学生を中心に据えた支援体制

については、実際に活用する学生や卒業生に満足度調査を行い、キャリア委員会及びセンターが評価する。

(2) 達成目標に対する達成度についての指標

就業力向上は、4つの達成目標について、評価者・評価手順・判定基準を定めた『評価シート』を用意し、事前・中間・事後の3回、一次・二次評価者が5段階評価して指標化し、達成度を向上させる。三次評価者は、指標の推移を見て総合評価する。

支援システムは、実際に活用する学生や卒業生に、満足度調査を行い、5段階評価した結果を指標として達成度を向上させる。

表2 評価シート

評価シート ①事前評価(ノ)、②中間評価(ノ)、③事後評価(ノ) (シート同様)

学籍番号	氏名									
※担任教員や教員がカウンセラーとの連携で評価してください	※それぞれに課題を記入していただく									
※就職指導のアドバイザーとの連携で評価してください										
※キャリアサポートボランティアを活用して課題を記入してください										
※就職指導センターを有効活用する卒業生も記入してください										
育成する能力	「自己管理能力」					「チームワーク力」				
達成目標	「コミュニケーションスキル」					「問題解決力」				
自己評価(一次評価者・学生本人)	自己評価(二次評価者・教員他)					自己評価(二次評価者・教員他)				
自己管理能力	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
チームワーク力										
コミュニケーションスキル										
問題解決力										
判定の根拠となる特記事項等										
一次評価者(学生本人)による総合評価	A B C D E					A B C D E				
二次評価者(教員他)による総合評価	A B C D E					A B C D E				
総合所見										

A~Eの該当する欄に丸印をつけてください。
 評価：A(たいへん能力がある)、B(ほぼ能力がある)、C(普通)、D(あまり能力がない)、E(能力がない)
 自己管理能力：自らを律して行動できる
 チームワーク力：他者と協働・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
 コミュニケーションスキル：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 問題解決力：問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施計画

1年目は、既卒者用就職情報システム、キャリアカウンセラーと学生・卒業生のキャリア支援SNSコミュニティ、地域連携ジョブサポーター制度を創設、未内定・内定取消学生を卒業後も支援する体制を構築する。

2年目は、さらに就業力向上に有効なヒューマンスキル訓練を学生に対して実施するとともに、ジョブサポーターによる支援を拡充し、学生サポートと既卒者を含む求人開拓を行う。

(2) 財政支援期間終了後の展開

今回の取組は、卒業後もサポートを続ける学生本位の学生支援体制の構築のため、大変有効な取組であり継続して実施する。就業力向上に有効なインターンシップは、2004(平成16)年度から導入し、現在は国内外に拠点があり、約5割の学生が参加するが、将来的には就職希望者全ての参加を目指す。産学連携の取組をさらに拡充し、地域人材を活用したジョブサポーター制度を充実させる。